

# 論 述

## 注 意

1. 問題は全部で3ページである。
2. 解答用紙に氏名・受験番号を忘れずに記入すること。
3. 解答はすべて解答用紙に横書きで、数は次の通りに記入すること。  
1桁と2桁の数は1マスに記入。例：8は $\boxed{8}$ ，80は $\boxed{80}$   
3桁と4桁の数は2マスに記入。例：234は $\boxed{2}\boxed{34}$ ，2007は $\boxed{20}\boxed{07}$   
小数点のつく数は小数点と小数点以下1桁の数字を1マスに記入。  
例：3.2は $\boxed{3}\boxed{.2}$ ，710.5は $\boxed{7}\boxed{10}\boxed{.5}$
4. 解答用紙は必ず提出のこと。この問題冊子は提出する必要はない。

【1】 下の表1と表2は、内閣府経済社会総合研究所編『国民経済計算年報』に掲載されている「国内総生産(GDP)」と「産業別 GDP 構成比」を用いて作成したものです。次の設問に答えなさい。解答用紙は(その1)を使用すること。

(設問) 表1と表2から読み取れる、国内総生産(GDP)の変化の特徴と、各産業の生産額の変化の特徴を350字以内に述べなさい。

表1) 国内総生産(GDP)の推移 (単位：兆円)

	1980年	1990年	2000年
国内総生産(GDP)	248	451	504

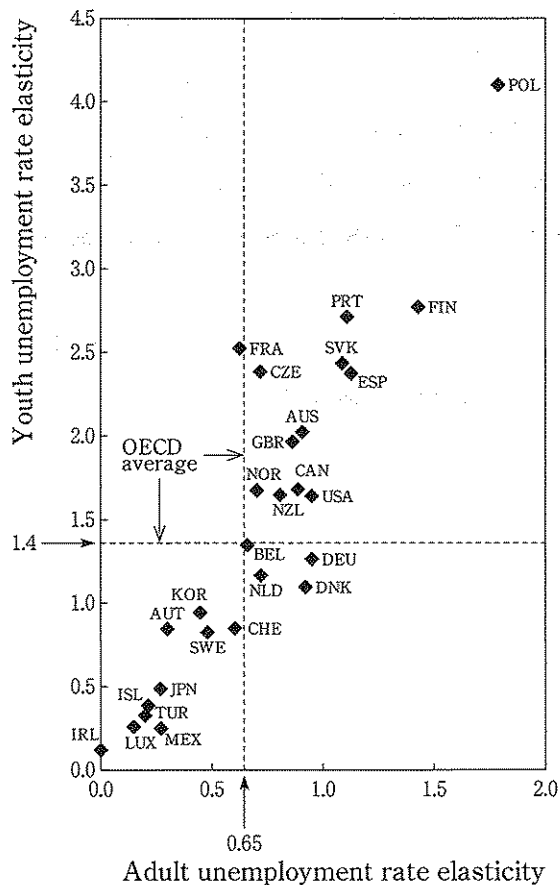
出所) 内閣府経済社会総合研究所編『国民経済計算年報』平成22年版

表2) 産業別 GDP 構成比 (単位：%)

	1980年	2000年
第1次産業(農林水産業)	3.6	1.7
第2次産業(鉱業、製造業、建設業)	37.8	28.5
第3次産業(その他)	58.6	69.8

出所) 内閣府経済社会総合研究所編『国民経済計算年報』平成元年版、平成22年版

【2】 下のグラフは、OECD が 2010 年 6 月に発表した調査からグラフの一つを抜粋し編集したものです。次の設問に答えなさい。解答用紙(その2)を使用すること。



記号	国名
AUS	Australia
AUT	Austria
BEL	Belgium
CAN	Canada
CHE	Switzerland
CZE	Czech Republic
DEU	Germany
DNK	Denmark
ESP	Spain
FIN	Finland
FRA	France
GBR	Great Britain
IRL	Ireland
ISL	Iceland
JPN	Japan
KOR	South Korea
LUX	Luxemburg
MEX	Mexico
NLD	Netherlands
NOR	Norway
NZL	New Zealand
POL	Poland
PRT	Portugal
SVK	Slovak Republic
SWE	Sweden
TUR	Turkey
USA	United States

出所) OECD SOCIAL, EMPLOYMENT AND MIGRATION PAPERS, NO. 106

RISING YOUTH UNEMPLOYMENT DURING THE CRISIS: HOW TO PREVENT NEGATIVE LONG-TERM CONSEQUENCES ON A GENERATION?

〔設問〕 このグラフは OECD 加盟各国について、GDP 成長率が潜在的成長率から 1% 下がったとき失業率が何% 上昇するか (unemployment rate elasticity) を、青年 (15 歳～24 歳) と壮年 (25 歳～54 歳) に分けて推定し、それらを散布図にしたものです (統計期間は 1996 年～2007 年)。次の①～③について、全体で 400 字以内にまとめて論述しなさい。

- ① このグラフから読み取れる全体の傾向を説明しなさい。
- ② どうして①のような傾向が発生するのか、仮説をひとつ立てなさい。
- ③ ②の仮説を検証するためには、どのようなデータ (数量的な観察結果) が必要かを述べなさい。データの種類の複数であっても構わない。

(注) 統計的制約により、グラフに示されていない OECD 加盟国があるが、それらについては無視して構わない。







